

かつて“車”はステイタスシンボルであり、人々はそれを買おうと考え、一生懸命働いて数年後に手に入れた。ようやくにして手に入れた車に家族を乗せ、観光地へ出かけようとして表通りに出ると車の行列、常識をこえた努力と忍耐のすえ目的地に到着すると、そこは駐車難に加えて人また人とゴミの山。ウィークデイはまたウィークデイで経済大国の基点に働く車また車が路上に並び、その間を人間がコマネズミのようにとびまわる。働きつかれて帰る電車は自分の意志では立つこともできないほどの混み具合。駅から家族の待つ家路はこれまた狭小のうえに加えての危険なしろもの。

都市——ここに住み毎日を送っている多くの人々は毎日繰り返される交通戦争に精神もまひして、交番の前に掲示されている“昨日の交通事故”数<死者

特集・都市交通

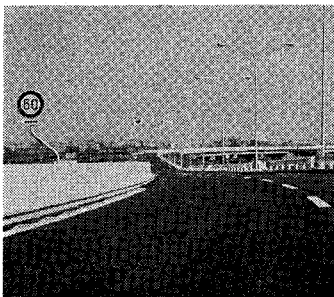
土木学会誌編集委員会

2桁>の悪夢も当然のことと、驚きもしない。そして、そこで訓練された身体は、人車分離された歩行者専用路を横断するときにも左右を確認する。そして、八王子市における1日ノーカー運動を生む時代を迎えた。

“爆発する都市”といわれるわが国の多くの都市は、多難な各種の都市問題の中でもとくに重大な交通事情の悪化に悲鳴をあげており、解決への道を模索するも世界の例にもれず糸口すらつかんでいない。政府としても、運輸政策審議会の「総合交通に関する答申」をはじめ建設省・警察庁の報告書を中心に本年中に経済企画庁に未来の交通地図をかかせるとしているが、これとて押しよせる都市化の嵐の中の交通対策にどれほどのカンフル剤となりうるのか、その成果に注目したいところである。また、学界としても同様であろう。



駐車場と化す甲州街道 (上)
東京新宿西口のスクランブル交差点 (右)
今日ものびてゆく都市高速道路網 (下)



多難な都市問題のうちの一つ、都市交通の問題だけを取り上げてみても、以下、本文にみられるように解決への道は永遠に閉ざされているかのようにみえる。しかし、都市が滅びないかぎり、われわれは都市交通の問題と取り組み解決への努力を怠るわけにはゆかない。それは、一日遅らせることにより一段と解決が困難になる問題であるからである。

今回、都市シリーズ第二弾として都市交通、とくに大都市交通に絞って特集を編んだ事由もここにあります。結果的には都市のもつ巨大な影にふりまわされて、きわめて不統一な編集となりましたが、これらの問題が腹藏することの深さによるものと寛容されたい。また、会誌編集委員会の難解な設問に応じて筆をとられた執筆者各位に誌上を借りて厚く御礼申し上げます。